

「第7回全国キューバ友好の集い」へのメッセージ

2022年11月30日

日本 AALA 連帯委員会国際部長

田中 靖宏

本日の催しに参加されたみなさまと、キューバ国民のみなさまに熱い連帯の挨拶を送ります。

キューバが米国による不法な経済封鎖の下、新型コロナ禍の克服にようやく目途がついた矢先、マタンサス石油備蓄基地の火災と大型ハリケーン「イアン」という二つの自然災害に襲われて、重大な経済困難に直面しているとの報道を受け、私たちは、心を痛めています。相次ぐ計画停電のもとで、長時間の忍耐をせまられる市民、とりわけ将来に思いをはせる青年たちの心情はいかばかりでしょうか。

この場をおかりして、遠く離れた日本にもキューバにこれまでと同様、頑張ってもらいたいと心から願っている多くの市民がいることをお伝えしたいと思います。

キューバのたたかいは、キューバだけのものではないと私たちは考えます。それは大国による横暴な支配と抑圧、搾取とたたかう世界のすべての人民と固く結びついています。この日本でも、アメリカいいなりの歴代政権のもとで、日本の主権の及ばない広大な米軍基地が残され、日本国民が知らない間に戦争に巻き込まれる危険がどんどん進行しています。沖縄県民がいくら基地撤去を求めても無視されて、逆に基地が強化されるという理不尽がまかり通っています。こうしたなかで人びとがともすれば未来への展望を失い、どうせ政治は変わらないとあきらめが広がりかねないことは、本当に憂慮されることです。

このような日本にとって、革命から60有余年、アメリカ帝国主義の干渉と不法な経済封鎖にたいして、主権を守って戦い抜いているキューバは、それ自体が大きな励ましです。強大なアメリカ合衆国の足元で、どうしてこのようなたたかいが続けられたのか。6回忌をむかえる故フィデル・カストロ議長の足跡ともに、

国民的な議論をへて新しい憲法を制定し、さまざまな改革に取り組んでいるキューバ国民の活動は、大きな教訓と私たちへ激励に満ちています。

さる 11 月 3 日の国連総会では、キューバが提出した米国の経済封鎖に反対する決議案が賛成 185 カ国、反対 2 カ国の圧倒的多数で採択されました。ロシアによるウクライナ侵攻など国際情勢は複雑ですが、キューバが掲げる国際的大義は不動のもので、国際社会はキューバとともにあります。

これまでにない経済危機のなかで、日常生活の不便や困難は増すばかり、これにつけいるアメリカの帝国主義的な策謀も強まるでしょう。非核、非同盟の日本と世界をめざして活動する日本 AALA は、主権をまもってたたかうキューバ人民とのさらなる連帯の強化をよびかけ、支援の運動をすすめることを表明します。

以上